

学生企画2025

社会教育演習 (MMC) 「文化の対話」イラン編

開催日時：2025年11月19日(水) 2限 (10:50~12:30)
場 所：神奈川大学みなとみらキャンパス
参加人数：企画者7名、参加者5名
ゲストスピーカー：ショクウ・サーメ(Shokouh Same)氏
担当教員：瀬沼 頼子 (非常勤講師)



○目的
日本で外国籍の方が働くことの困難を知り、解決のために学生は何ができるのかを考える。

○内容
イラン出身の留学生であるショクウ氏の講義を聞き、「日本の生活で困っていること」から一つ選んで学生視点で解決策を考える。

○参加者の声
外国の方から直接、課題や感じていることに関しての声を聴く機会がなかったことで、貴重な体験になりました。特に、「建前」や「失敗に対する恐れ」は日本人でも理解することが難しいと感じます。困難を感じている外国の方には手助けをしたいと考えました。(国際文化交流学科 4年 Y.M)

○企画者側からの視点

ショクウさんは英語で会話をしていますが、私は英語が不得手でご不便をおかけすることも多く、準備が足りなかったという反省点が残りました。しかし、ショクウさんと講座前の打ち合わせでいつも素敵な笑顔でお話ししてくださって、気持ちがとても和みました。当日も、身振り手振りや写真をたくさん見せていただき、異国イランの文化とショクウさんのことについて知ることができました。講座開講にあたりご協力いただいたショクウさん、本当にありがとうございました。講座を終えてさらに、異文化理解するというステップの前に、異文化を知ることが大切だと感じました。これからも知る機会を多く用意できるような、社会教育を目指していきたいと思います。

(日本文化学科 4年 N.A)



○企画者側からの視点

今回の講演を通じて、多文化共生は「特別な支援」ではなく、私たち自身の意識と行動の変革から始まるのだと強く感じました。特に、質疑応答で出た「偏見と区別の違い」について「その国に対する印象(ステレオタイプ)をそのまま個人に当てはめることは偏見になり、その人個人から見られる事実をもとに判断することは区別である」というお話しはとても印象的でした。まずは「やさしい日本語」を使うこと、そして何よりも「偏見を持たずに、違いを理解しようとする」ことから始めていきたいです。日下様、王様、貴重な講演をありがとうございました！(国際経営学科 3年 T.S)



学生企画2025 「多文化共生」を考える

開催日時：2025年12月3日(水) 2限 (10:40~12:30)
場 所：神奈川大学みなとみらいキャンパス
参加人数：企画者6名、参加者6名
ゲストスピーカー：館長 日下晋輔氏、館長補佐 王慶紅氏
担当教員：瀬沼 頼子 (非常勤講師)



○目的
「多文化共生」について、現状と課題、そして解決のヒントを考える。

○内容
前半は多文化共生の現状についての講義、後半は「私たちにできることはなにか」についてグループワークを行う。

○参加者の声
まずは、隣人である外国人の方に関心を持ち、挨拶や簡単な会話から日常的なコミュニケーションを始めることが、相互理解の第一歩につながるのではないかと思います。

○連携(公財)横浜市国際交流協会(YOKE) みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ



学生企画2025

社会教育演習 (YC) 先輩のお話を聞こうの会

開催日時：2025年11月18日(火) 1限 (9:00~10:40)
 場 所：神奈川大学横浜キャンパス 20号館
 参加人数：企画者6名、参加者21名(3年) ゲスト5名(4年)
 担当教員：齊藤 ゆか (人間科学部教授)



○目的

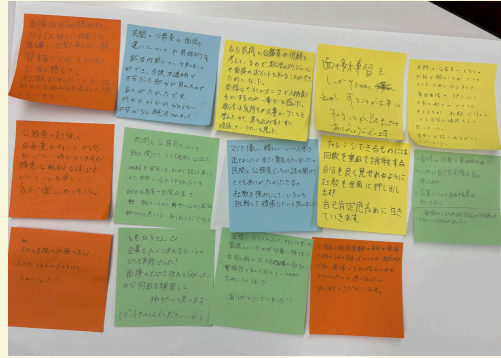
すでに就職活動を終えた4年生の就活体験談やアドバイスを伺い、今後の進路選択や就職活動の参考とする。

○内容

1人の先輩につき5~6人のグループを組み、15分×3クールで先輩の話を聞く。

○参加者の声

公務員試験は独自の対策が必須なため、先輩から具体的な「勉強法」や「開始時期」を直接聞ける点は、我々3年生の不安解消に直結する企画になってよかった。一個上の先輩から聞けたことが気軽に質問することができ、気になることも深掘ることができた。(法律学科 3年 H.T)



○企画者側からの視点

今回「先輩のお話を聞こうの会」を企画・運営し、授業内でどのように時間配分をすれば良いか、どうしたら実りのある会になるかなど様々な事を考え、頭の中でシミュレーションを行ったりしました。しかし当日は自分の思ったようにはいきませんでした。その中でチーム内で臨機応変に対応できたことは良かったかなと思います。

参加者側の感想としても参考になった、就活に対する熱意が上がったなど、多くの方が受けて良かったと言ってくれたことも良かったかなと思います。しかし、改善していかなければいけなかった点もいくつかあったため、その改善点をないがしろにせず次に生かしていこうと思います。(自治行政学科 3年 O.K)

○企画者側からの視点

工夫した点は、来てくださる先輩方全員の話聞けるような形式にしたことです。良かった点として、チームで役割分担をしながら進めたことで、準備から運営までをスムーズに行うことができたことがあります。また、先輩方の発表の時間とその後の質問タイムの時間との配分も良かったと思います。改善点としては、準備の段階で先輩方に負担をかけてしまったことです。事前に私たちから聞きたいことについてパワーポのテンプレートなどを作れば、もっと負担を減らせるかと思えます。今回、先輩方の実体験をお聞きすることができ、とても有意義な時間でした。先輩方からいただいたエールを胸に、今後の就職活動に励みたいです。(人間科学科 3年 Y.N)



就活ガイダンス!

開催日時：2025年11月25日(火) 1限 (9:00~10:40)
 場 所：神奈川大学横浜キャンパス 20号館
 参加人数：企画者8名、参加者19名(3年) ゲスト5名(4年)
 担当教員：齊藤 ゆか (人間科学部教授)



○目的

就職活動に不安を感じている社会教育課程の3年生を対象に、先輩の体験を通して就活の流れや心構えを学び、今後の就職活動への意欲と自信を高める

○内容

前半は講義形式で、先輩5名による約8分ずつの就活体験発表。後半は4年生1人が3年生5人のグループをローテーションし質疑応答・交流会。

○ゲストスピーカーの声

自分の経験を話す事で、「どうせ自分には無理だ」ではなくて、「公務員試験は努力を続けた人が受かる試験」であると、伝えることを意識した。(自治行政学科 4年 O.K)



学生企画2025

社会教育演習 (YC) 社会教育現場のリアル

開催日時：2025年12月16日(火) 1限 (9:00~10:40)

場 所：神奈川大学横浜キャンパス 20号館

参加人数：企画者6名、参加者21名 (3年)

ゲストスピーカー：横須賀市生涯学習センター館長・元横須賀市教育委員会
社会教育主事 高橋直人様、教育委員会事務局教育総務部生涯学習課 主任
兼社会教育主事 遠藤雅弘様 担当教員：齊藤 ゆか (人間科学部教授)



○企画者側からの視点

○目的・内容

「社会教育に関わるキャリア」について、実際に社会教育の現場で働いてきた方々から学ぶため、講義とインタビュー形式で行った。

○参加者の声

高橋さんがあげた社会教育士に必要な能力は以前学生間でおこなったクドバスの結果と当てはまるところが多かった。一方、遠藤さんが考える能力は授業で扱われていない能力だったため、新たな視点を学べて、自分になかった考え方を知れることが社会教育の楽しさだなと実感した。(人間科学科 3年 K.H)

「社会教育主事のキャリア」について主事経験のあるゲストスピーカーから話を聴くことで、社会教育のイメージを深め、学んできたことを言語化できるきっかけになればと思い企画しました。準備に取り組む中で最も重視した点は、参加者が最後まで集中できる環境をどう作り出すかです。100分全て講義形式では変化に乏しいと考え、教室を前方後方で分けて、参加者入れ替え制でゲストスピーカーに話してもらう案が出ました。けれど室内の規模やゲストスピーカーの負担を考慮し、講義形式を基本に置きながらパネルディスカッションと質疑応答の時間を設けることで、講座内容に緩急を出せたことが良かったと思います。(人間科学科 3年 K.H)



○企画者側からの視点

当日まで、どうしたらかながわユースフォーラムの魅力が1.2年生に伝わるのか、何をしたら楽しんでくれるのか考えて、ギリギリまで準備を行いました。当日の準備でも間に合ったのは、チーム内でそれぞれがやるべきことを理解し、しっかりと役割分担をして準備に取り組むことができたからだと思います。イベントの最中、予定していたクイズが行えないトラブルがありましたが、その時にも臨機応変に時間配分やゲームの数を変えたことで、参加者の方に楽しんでもらったのだと思います。企画を成功させるには、個人でそれぞれが役割を全うし、チーム内で協力することが大切だと改めて感じました。(人間科学科 3年 I.S)



3年生企画「クリスマス交流会」

開催日時：2025年12月23日(火) 4限 (15:20-17:00)

場 所：神奈川大学横浜キャンパス 20号館

参加人数：企画者6名、参加者21名 (1.2.3年)

担当教員：齊藤 ゆか (人間科学部教授)



○目的

社会教育課程を履修している3年生と1・2年生の交流。

○内容

「かながわユースフォーラム」についての説明後、ゲームを通じた先輩後輩の交流会を行い、今後の社教のイベントについてカジュアルな場での質問会とした。

○参加者の声

クリスマスやこれまでの授業内容にちなんだ企画が工夫されており、学びと楽しさが両立した会でした。先輩方のように社会教育を学ぶことで得られる魅力や経験を、これからの後輩に伝えられるよう、私自身の学びを深めていきたいです。

